

富士市SDGsの課題と取り組み



14 海の豊かさを
守ろう



目標 14

海洋と海洋資源を保全し、
持続可能な形で利用する

富士市の課題

近年、富士市名物のシラスや静岡県清水区由比のサクラエビの漁獲量が減っている問題があります。なぜ漁獲量が減ってしまったのか、漁獲量の減少を食い止めるためにはどうすれば良いかを考えるには、シラスやサクラエビのえさになる植物プランクトンの生産量とこれを支える海の表層の栄養状態を知ることが重要です。

駿河湾の周辺地域は、日本でも有数の多雨地域です。富士市でも日本の年平均雨量1700 mmを上回る2150 mm程度の雨が降ります。さらに、富士山や伊豆の天城山、南アルプスでは年間の3000~4000 mmもの雨が降ります。この雨はもともとは海から蒸発したもので、山に降った雨は土にしみ込み森の豊富な栄養分を、川や地下水を通じて駿河湾に運んでいます。山と海とはこのような水の環(わ)でつながっており、この水の環(わ)が海の生態系や生物生産を育てているのです。シラスやサクラエビの漁獲量の減少には、海の栄養状態の変化に加えて、2017年から続いている湾外を流れる黒潮流路の変化(大蛇行)や温暖化による海水温の上昇も関係している可能性も指摘されており、シラスやサクラエビの不漁となる明確な理由はまだ分かっていません。植物プランクトンの生産量とこれを育む海の表層の栄養状態を解明することが目の前の課題だと思えます。



富士山と漁船

富士市の取り組み

富士市では、高度成長期と呼ばれる1960年から70年代にかけて、田子の浦のヘドロ問題が全国的にも有名になりました。これに対し市民、企業、行政が一体となった活動によって、きれいな大気、水、そして駿河湾を取り戻してきました。そして、このきれいな環境、富士市を現在まで守っています。こういった取り組みは、市民の意識も含めて非常に重要だと思いますので、今後もぜひ続けていっていただきたいと思えます。また1960年ごろの全国的な開発ブームのころ、富士山麓でも多くのゴルフ場などの開発計画がもちあがり、森林が危機的な状況になる可能性があったことから、市では富士・愛鷹山麓地域環境管理計画を策定し、森林伐採を伴う開発を抑制してきました。この計画を発展させ、令和3年には富士・愛鷹山麓の森林機能の保全に関する条例が施行されました。森林機能の保全は陸域の問題ですが、山や森と海とは、水の環(わ)でつながっています。森林や水を守る努力が、海に供給される栄養という問題で森林と海とがつながってくるはずなので、こういった取り組みも素晴らしいと思っています。



田子の浦港のヘドロ(1971年)

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



東海大学海洋学部 教授

成田 尚史

富士市環境審議会の委員(会長)として、環境の保全及び創造に関する事例について調査審議を行っています。

専門分野は海洋地球化学、化学海洋学、生物地球化学

所属学会：日本海洋学会、日本地球化学会、日本分析化学会、
アメリカ地球物理学連合



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS